

グループホーム桜野

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0972600399		
法人名	医療法人 恵生会		
事業所名	グループホーム桜野		
所在地	栃木県さくら市桜野1297番地3 (電話) 028-682-1820		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年3月5日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは国道からやや奥まった住宅地にあり、母体の医療機関が至近の距離にある。1丁目、2丁目のそれぞれのユニットは、ときどき一緒に行事等を行ったりしながらも、献立や外出など、それぞれ独自の生活をつくっている。弁当を作ったの外出も多く、入居時に準備してもらうものとして、弁当箱を明記している。この一年での職員の異動や離職がなく、一人で近所に遊びに出かける方がいたり、畑を見に行く方がいたり、職員が入居者の特性を把握し、見守りながら自由な生活を支援している様子がうかがえる。近所の幼稚園・保育園児との定期的・頻繁な交流が入居者の楽しみになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 外部評価の結果を運営推進会議で報告して意見をもらい、改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 今回の自己評価は職員がそれぞれ自己評価を実施しまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 家族の代表、行政区長、民生委員、幼稚園教諭、保育士、市役所職員に参加してもらい、年3回程度開催している。当日勤務の職員もほとんどが参加し、ホームの状況を報告し、意見をもらって運営に活かしている。災害対策の話題の時には消防署職員にも参加してもらうなど、会議の持ち方も工夫している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 居室担当制をとっており、担当の職員が家族の面会の際や必要に応じて電話・FAXで報告・連絡をしている。年4回広報誌「さくら通信」を発行しており、行事の報告や予定、入居者の写真、職員の所感などを掲載している。預かり金は出納帳で管理して家族に確認してもらっている。重要事項説明書にホーム・市・国保連の苦情・相談窓口を明示している。苦情があった時には職員に周知し、また運営推進会議でも状況を報告し改善に努めている。管理者は、意見交換の場として家族会の場を設けたいとも考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） ホームは住宅地の中にあり、散歩の際などに挨拶を交わしている。道路を挟んで畑があり、野菜を近所におすそ分けしたりもしている。幼稚園・保育園と定期的・頻繁な交流を持っている。自治会の行事等には参加していないが寄付等の協力をしている。高齢者本人や家族から相談の電話を受けることもあり、ホームの認知度が徐々に上がっている。

【情報提供票より】（平成21年1月1日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 7 人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算6.6人 常勤5人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算5.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋・準耐火建築 1階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	水道代—50円/1日, 電気代—200円/1日, ガス代—100円/1日 ・日用消耗品費—80円/1日, 持込家電—50円/1点・1日 ・理美容代, おむつ代—実費		
敷金	無				
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—		
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円	
	夕食	600 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(平成21年1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 恵生会 黒須病院, 斉藤歯科医院
---------	-----------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「居心地の良いグループホームを目指して」を理念とし、具体的目標として「家庭的で暖かな雰囲気」「その人らしい生き方の尊重」「利用者、家族、地域にオープン」を掲げ、さらに職員の行動目標を定めている。2丁目ユニットでは、認知症介護実践研修を受講した職員を中心に、皆でユニット理念を作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践するための具体的目標、行動目標を定めており、事務スペースに掲示されている。さらに、禁止行動や禁止用語を定め、職員間で対応の統一化を図っている。2丁目においては「自分だったらどうしてほしいか」を念頭に、職員でユニット理念をつくり上げた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは住宅地の中にあり、散歩の際などに挨拶を交わしている。道路を挟んで畑があり、野菜を近所におすそ分けしたりもしている。幼稚園・保育園と定期的・頻繁な交流を持っている。自治会の行事等には参加していないが寄付等の協力をしている。高齢者本人や家族から相談の電話を受けることもあり、ホームの認知度が徐々に上がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を運営推進会議で報告して意見をもらい、改善に努めている。今回の自己評価は職員がそれぞれ自己評価を実施しまとめた。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、行政区長、民生委員、幼稚園教諭、保育士、市役所職員に参加してもらい、年3回程度開催している。当日勤務の職員もほとんどが参加し、ホームの状況を報告し、意見をもらって運営に活かしている。災害対策の話題の時には消防署職員にも参加してもらうなど、会議の持ち方も工夫している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に複数の職員が参加することもある。ホーム広報誌を市に届けるなどして、なるべく市役所に顔を出す機会をつくっており、報告・相談等しながら質の向上に努めている。ホーム広報誌には、市関連の情報を載せるコーナーもついている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当制をとっており、担当の職員が家族の面会の際や必要に応じて電話・FAXで報告・連絡をしている。年4回広報誌「さくら通信」を発行しており、行事の報告や予定、入居者の写真、職員の所感などを掲載している。預かり金は出納帳で管理して家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム・市・国保連の苦情・相談窓口を明示している。苦情があった時には職員に周知し、また運営推進会議でも状況を報告し改善に努めている。	○	管理者は、意見交換の場として家族会の場を設けたいとも考えており、運営推進会議にもその旨を報告している。家族等から何でも言ってもらえるような場づくりの一環として、その実現に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年では異動も離職もない。職員の居室担当制をとっている。食事の献立や行事等、基本的にユニットごとに別々の動きをとっているが、ユニット間で職員異動を行うときは勤務体制を工夫しながら入居者との関係づくりに配慮している。新人職員用のマニュアルをつくっている。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員に合った研修を選んで参加させたり、受講希望を募るなどして外部研修の機会をつくっている。カウンセリング研修などは順番で全職員に受講してもらいたいと考えている。研修終了後は報告書を作成し、伝達会や報告書の回覧で研修内容の共有を図っている。年2回の人事考課や職員の誕生日に合わせた面接、職員アンケートなど管理者と職員が改めて話し合う機会もつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、研修会や会議などで他事業所との交流を図っている。市内の他ホームとは電話で相談を受けたりといった関係ができています。	○	職員が他ホームを見学したり、他ホームの職員と交流したり、共に学ぶ機会をつくることで、他ホームの良いところを取り入れたり、自ホームの良いところを再確認する機会にもなると考えられるので、職員間の交流もできるようなネットワークを構築していくことに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人に見学に来てもらい、お茶を飲んだり、食事をしたり、お風呂に入ってもらいなどしてホームの雰囲気を覚えてもらい、入居者や職員と触れ合う機会をつくっている。入居後は3ヶ月程度の暫定で介護計画を作成し、様子を見ながら入居者に合った介護計画を作成するようにしている。職員の居室担当制を取り入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や後片付け、掃除、洗濯物整理など、本人のできることや体調・気分などに合わせて一緒に行っている。管理者、職員共に入居者が喜怒哀楽の感情を表にだすことを大切に考えており、職員は穏やかに入居者に関わっていた。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が自分の感情や思いを表に出すことを大切にしているということが、管理者・職員から聞かれた。家族から情報を得たり、居室担当制を活かして職員の気づきも反映して本人本位の支援になるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向・希望を踏まえ、日頃の生活の中で気づいた職員の気づきも活かしながら、計画作成担当者、居室担当者等で話し合い、必要に応じて医師の指示も取り入れて、本人がより良く暮らすための介護計画作成・見直しに努めている。	○	今後、入居者がより高齢になることに伴って、家族や医療関係者、必要な機関等との連携が必要になってくると考えている。また、個人記録への意識の持ち方など職員のアイデアや気づきを更に活かせるようにしていきたいと考えている。本人・家族も一緒になって自分らしい生き方を一緒に探っていくためにもカンファレンスの場づくり等、更なる充実を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初は暫定的に3ヶ月の介護計画をたて、その後ホームでの入居者の様子を踏まえて介護計画を見直している。6ヶ月に1回モニタリングを実施し、定期的な見直しをしている。日常の中でのケアの修正点等は職員間で話し合い、申し送りノートも活用しながら職員間の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。管理者を含め看護師が2名おり、体調の変化等に対応しやすい体制になっている。入居者が1人で外に出かけたり、近所に遊びに行く方もいるなど、入居者の思いに逆らわない柔軟な支援に努めている。		

グループホーム桜野


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体は医療機関であるが、本人・家族の希望にそった医療機関での受診を支援している。必要に応じて健康チェック表を提供したり、ホームでの生活を家族・医師に伝えて適切な医療が受けられるよう支援している。入院になった場合には、管理者や職員が頻回に面会に行ったり、場合によっては洗濯物を預かってきたりということもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設から丸5年になろうとしており、入居者が重度化している様子もうかがえる。急変時の対応マニュアルを作っており、そのような可能性のある方の家族とは適宜話し合いをしている。重度化・終末期については、状況に応じてできるところまでホームで対応したいと考えている。	○	重度化・終末期の対応については、家族と、あるいは職員間での思いの共有・連携が必要になってくる。ホームでの重度化・終末期の対応について、ある程度のイメージを共有していくという意味でも職員間、あるいは検討されている家族会等で話し合いを重ねていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が気をつけるべきこととして禁止行動や禁止用語を定めており、本人の誇りを傷つけないような対応に努めている。職員は穏やかに入居者に接していた。個人記録等は事務所で管理しており、広報誌等への写真の掲載についても契約時に本人及び家族に同意をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの生活の流れはあるが、居室で自分の時間を過ごす方もいれば、畑を見に行く方もいたり、近所に遊びに出かける方もいたり一人ひとりのペースにそった生活の支援に努めている。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1丁目、2丁目それぞれに献立を立てている。好物を取り入れたり、お寿司バイキングを実施したり、手作りおやつをつくったり、弁当を持って外に出かけたりと食を通しての楽しみをつくっている。食材の買い物には週に2~3回程度出かけている。一緒に調理をしたり、洗い物をしたりしている。職員も入居者と一緒に同じ物を食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけは毎日しているが、強制するわけではなく、本人の無理のない範囲で入浴を支援している。午後の時間帯に入浴する方が多いが、希望によっては午前中や夕食前にも支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、洗い物、掃除などの家事を入居者と一緒に行っている。新聞を読んだり、音楽を聴いたり一人の時間を楽しむ方もいる。道路を挟んで畑があり、様子を見に行く方もいる。自身で近所に遊びに行く方もいる。縫い物やパズル、ぬり絵を楽しむ方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良いときには散歩に出かけている。一人で散歩に出かけたり、近所に遊びに出かけたりする方もいる。月に1~2回は外出の機会を設けており、弁当を作って出かけることもある。入居当初に持ってくるものの案内には「弁当箱」と書いてある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1丁目の玄関には鍵が掛かっているが、事務スペースを通過して2丁目の玄関から出られるようになっており、職員は入居者の特性を把握して見守っている。訪問日にも畑を見に行く入居者の姿が見られた。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合訓練を実施している。夜間を想定しての訓練も実施している。訓練実施の際には近所にも声をかけている。昨年の外部評価の結果として運営推進会議でも話題にし、消防署職員を招いてアドバイスも受けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えながら食事づくりをし、食事内容は3ヶ月に1回程度法人の管理栄養士に評価してもらっている。食事摂取量を記録しており、摂取が困難な場合にはバナナやプリンなど補助的に栄養補給できるよう配慮している。水分は必要な場合に声かけをして必要な量が摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間としての畳スペースのコタツには入居者の手によるカバーが掛かっており、ポットや湯呑み茶碗入れなどが置いてあり、自由にお茶を入れられるようになっていた。壁面には写真や交流のある子どもたちとの共同作品ががざってあった。片方のユニットにやや気になる臭いを感じたが、対応を検討して実施している。畳スペースに段差があるため、車いす使用の方はテーブルで食事等をしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に準備するもの（案内文書）の中に「使い慣れた家具・置物」「本人のお気に入りの物」「写真・アルバム類」と明記されている。コタツ、テーブル、イス、テレビ、仏壇などを持ってきている方もおり、それぞれの居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。